

コア・タイムス

[The Center for Overall Research on Education]

発行所 加西市立総合教育センター

加西市北条町古坂 1173-14

TEL 0790-42-3723

加西市発達支援プログラムの実践

子どもたちの和みの笑顔、ドキドキした鼓動

特別支援教育の充実に向けて

特別支援教育元年といわれた平成 19 年度以来、特別支援教育コーディネーターを中心とした各校での取り組みの充実が求められ、学校によって一定の成果を挙げられています。

加西市では、教育委員会と国保健健康課が連携し、発達相談を行うとともに、子どもの発達状態を多面的、総合的に把握し、成長課題に応じた支援を行っています。

総合教育センターでは、その取組の一環として、子どもたちの発達状態によりそい成長課題を捉えることを目的に、発達支援プログラムを開設し、専門チームによるトレーニングを行っています。チームは、言語聴覚士や音楽療法士等で構成されており、音楽療法や言語コミュニケーション、ソーシャルスキル、感覚学習などのトレーニングを実践しています。また、保護者学習会や関係者会議等により、発達の視点から見た子どもたちの成長状況を学校現場や保護者に伝え、共通理解を深めています。

「音楽療法プログラム」

音楽療法プログラムでは、音楽が人間の生理と心理に及ぼす機能的効果を利用して、子どもたちに表現の手段と楽しさを体感させる取組を行っています。

☆ Joyful Emotion Time

「シャラシャラー♪

サラララー♪」

軽やかな心音が聞こえてきました
心休まる「さざ波音」
ドアを開けると、オーシャンドラム
(海の音) 楽器を手にした可愛い子どもたちの笑顔がありました。



写真：オーシャンドラム

「言語コミュニケーション」

言語の最も大きな役割は、コミュニケーションです。子どもたちのかかわりを深め、コミュニケーションを促し、積極性や可能性を引き出すことで達成感を得て、学習に必要な集中力や認知能力を高める活動を行っています。



音楽療法

☆ Show & Tell 大切なものを見せて(show) 教えて！(Tell)

「私が大切にしているノートです。さみしいことがあった時、ここの絵を見ていやしてくれるから・・・」

質問：指導者「貼ったのは誰ですか」

答え：「わたし」

質問：指導者(絵)「これは？」

答え：(絵を指さして)「これはうさぎの〇〇です」

質問：友だち「なんで写真を切って貼ったのですか？」

答え：「写真を貼ったらさみしい時とか勇気が出るからです」

ドキドキした鼓動が聞こえてきそうな小さな胸に、大事そうにかかえたノートはひまわり色。

お友だちのパチパチ拍手に、和みの笑顔が輝きました。



読書への誘い

西洋には古くから、「食物は体の糧、読書は心の糧」という名言があります。

この名言を待つまでもなく、人間らしい豊かな心を育てる上で、よい本を読むことはとても大切なことです。

日本では、昭和22年より毎年10月27日から11月3日の文化の日を中心とした2週間を「読書週間」として、「よい本を多く読んで、心を豊かに育てよう」という趣旨で、読書を推進する取り組みを行っています。



近年、情報化社会が急速に進む中で、子どもたちの「読書離れ」が顕著になっていきます。その原因として、テレビやゲーム、パソコンなどの情報メディアの発達により、楽しみを味わう手段が多様化してきていることが挙げられます。また、通塾や稽古ごとなどで、子どもの生活が

忙しくなってきたり、因だと思えます。つまり、社会全体の変化が子どもにも反映してきているとも言えます。

子どもの読書離れは、子どもの心の成長にもかかわるものです。それだけに、家庭においても親子での読書を進めていくことが大切だと思います。読書離れをなくしていくには、単に「本を読みなさい」といっても不十分です。子どもたちが、自分から進んで本を読みたくなるように「読書への誘い」が大切です。例えば、小学生のお子さんには、次のような読書への誘いをしてみたらどうでしょうか。

「は、気長に読み聞かせを続け、本の楽しさを味わわせ、経験を広げていくことです。子どもは、話を聞くことにより本が好きになります。その二つは、好きな本から読ませることです。親の立場からは、一方的に文学書等をすすめても子どもの読書意欲は高まりません。その子が興味をもつ本を思う存分読ませることです。その三つは、本の価値を実感させることです。本を読んだ疑問に思ったことなどを知る楽しさや喜びを実感で味わわせることです。

こうして、「読書週間」を機会に、読書を身近なものとして、本を読み、楽しい世界を広げたいものです。

補導委員ならびに青少年補導センターの関係者が一堂に集い、10月22日(土)午後1時より、三木市文化会館において、標記の大会が開催されます。

大会では、「犯罪から見た、青少年の非行防止」と題して、関西国際大学の桐生教授が講演されます。

また、講演に先立ち、補導委員を10年以上継続していただき功績のあった方に贈られる知事感謝、同じく5年以上継続していたいただき功績のあった方へ贈られる会長感謝の表彰も行われます。

加西市からは、左記の皆様が受賞されます。(敬称略)

「ふれあいホーム」の活動の中で

加西市適応教室「ふれあいホーム」は、今年4月から、市役所に近い閑静な住宅街の一角に開設された「加西市立総合教育センター」に場所を移しました。施設のすぐ隣には地域のグラウンドがあり、里山もあります。



通常は、午前中に教科学習を行い、午後は清掃活動と読書活動を行っています。その後は屋

外でバドミントンやバレーボールをしたり、室内でゲームをしたりと自由時間を過ごします。そして、月に1度は、山登りに出かけたり、調理実習を行ったりしています。

先日の山登りのときのことです。大きな桜の木を前にして登

ろうとする意欲満々のT君。メンタルフレンド(子どもたちに勉強を教えたり、一緒に遊んだりお話ししたり、子どものサポートをしてくれる学生)のSさんに向かって、「どうやったらうまく登れる?」「うん、そうやな。ここに足、そのちよつと上の枝に手・・・」「ふうん、やってみるわ」そんな会話を繰り返しながら、真剣な表情で登って行くT君。それを見守るSさん。そして何とか登りきった瞬間、T君は目を輝かせて「やったー!」

第44回兵庫県青少年補導委員大会開催

青少年の健全育成および非行防止活動を積極的に推進することを目的に、兵庫県内の青少年

会長感謝		知事感謝	種別											
宮川貞二	和田豊志	原田正幸	岡田 亘	三宅弘之	藤原 学	後藤健三	岩本光弘	山崎勝彦	村田有史	安田和也	横田かおり	西井律子	氏名	校区
西在田	西在田	宇仁	九会	九会	九会	下里	下里	賀茂	賀茂	賀茂	協力員	女性		